

様式

技術名称	吸出防止目地材 RF型目地材	技術の分類	裏込・裏埋工の 吸出し防止材	NETIS登録の有無 (有場合はNETIS番号)	KKK-110002
会社名等	シバタ工業株式会社	担当者	松原繁広	連絡先	052-528-5201
技術の概要	<p>1)本技術は、岸壁や護岸の裏込裏埋工に用いる裏込石の吸出防止目地材で、ケーソン等構造物の背面目地部に取り付けられる。</p> <p>2)断面構造は、ゴムの中に繊維を積層埋設した構造である。</p> <p>3)本体の片側固定が可能で、裏込施工前は波を港内に逃し本体の負担を軽減でき、裏込施工後は背面外力で本体が押され目地部を覆う材料である。</p> <p>4)片側固定であるため、目地部の拡大や上下段差、前後の出入り等の移動に対して追従することが可能である。</p> <p>5)従来より耐圧性、耐久性、追従性等の向上に期待できる。</p>	添付資料	パンフの有無	有	
			その他の資料	実績資料等	
技術の特徴	<p>比較する従来技術・・・防砂板(軟質塩化ビニル製、厚さ5mm)と円筒状目地材(ゴム製)の併用時</p> <p>1)従来の防砂板(塩化ビニル)の均一構造に比べ、本技術はゴムに繊維を積層埋設するため本体強度が向上する。</p> <p>2)従来技術の円筒状目地材は、波圧を本体で受けるが、本技術は、裏込施工前は波を港内に逃し目地材に作用する負担を低減させる。</p> <p>3)従来技術の防砂板(塩化ビニル)は、両端固定であるため本体の伸びで追従(初期から30cm程度の拡大)するが、本技術は片端固定であるため製品幅において構造物の移動に追従するため本体にかかる負担が少なく大きな追従量(初期目地幅10cm→60cmまで)が確保できる。※出入りがある場合は別途検討が必要。</p> <p>4)本技術は、塩化ビニル目地材と円筒状目地材の組合せより施工手間が減る。</p> <p>5)本技術の経済性(材料費+施工費)は、従来技術より10%程度削減できる。</p>	その他	<p>【特許】 特許第2839441 【施工写真】</p> 		